貝塚市埋蔵文化財調査報告第22集

貝塚市遺跡群発掘調査概要XIII

1991. 3

貝塚市教育委員会

はじめに

わが貝塚市は、北に波静かな大阪湾、南に緑豊かな和泉山脈とに接し、恵まれた自然環境を有する地域であります。その自然環境の良さから、市内にはわたくしたちの先人が残した数多くの遺跡があります。

これらは貴重な歴史的・文化的遺産であり、後世に伝えるために保護を講じることは、現在に生きるわたくしたちに与えられた義務であります。しかし、近年の都市化の波による各種開発はこれらを破壊の危機にさらしています。

今回の調査もこうした開発行為に伴う事前調査でありますが、幾多の成果を得ることができましたのでここに平成2年度中に実施しました市内埋蔵文化財緊急発掘調査の一部を報告いたします。本書の刊行にあたりまして、皆様の文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存、研究の一助となれば幸いに存じます。

なお、調査並びに本書作成にあたり、地元の方々をはじめ関係者各位には多大なご理解ご協力を頂き、末筆ではありますがここに深く感謝の意を表す次第であります。

貝塚市教育委員会

教育長　岡根和雄

例　　言

1. 本書は貝塚市教育委員会が平成2年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査結果のうち、地蔵堂廃寺跡、地蔵堂遺跡、加治神前畠中遺跡の発掘調査にかかる結果の概要報告である。

2. 発掘調査は貝塚市教育委員会社会教育課、学芸員前川　浩一、三浦基（平成2年4月より）が 担当し、平成2年4月2日より調査を実施し、　翌3年3月31日に終了した。

　また、現地調査および本書作成にあたる諸作業については、下記の諸氏の参加を得て実施したものである。

　樣佐枝子　上野　元　上東　東　奥谷　隆　清水久子
　下中良仁　田代自子　田渕広巳　中辻澄子　藤井記代美

3. 本書の作成にかかる編集は、前川、三浦が共同し、執筆は各章の2～4節を三浦、それ以外を前川が担当した。

目　　次

はじめに

例　言

目　次（本文目次、図版目次、挿図目次）

Ⅰ．地蔵堂廃寺跡の調査

1. 位置と環境 …… 1

2. 調査の概要 …… 1

3. 検出遺構 …… 2

4. 出土遺物 …… 4

5. まとめ …… 6

Ⅱ．地蔵堂遺跡の調査 …… 7

1. 位置と環境 …… 7

2. 調査の概要 …… 8

3. 検出遺構 …… 10

4. 出土遺物 …… 10

5. まとめ …… 11

Ⅲ－1　加治神前畠中遺跡の調査 …… 12

1. 位置と環境 …… 12

2. 調査の概要 …… 13

3. 検出遺構 …… 15

4. 出土遺物 …… 15

5. まとめ …… 15

Ⅲ－2　加治神前畠中遺跡の調査 …… 16

1. 位置と環境 …… 16

2. 調査の概要 …… 16

3. 検出遺構 …… 17

4. 出土遺物 …… 19

5. まとめ …… 19

図版目次

図版1　地蔵堂廃寺跡
1．調査地全景
2．A区全景

図版2　地蔵堂廃寺跡
1．SD－1
2．同上

図版3　地蔵堂廃寺跡
1．B区全景
2．同　上

図版4　地蔵堂遺跡
1．第1区全景
2．第2区全景

図版5　地蔵堂遺跡
1．Pit－1，SX－1
2．同　上

図版6　加治神前畠中遺跡
1．調査区全景
2．同　上

図版7　加治神前畠中遺跡
1．SD－2，Pit－1～3
2．同　上

図版8　加治神前畠中遺跡
1．SD－1
2．同　上

図版9　加治神前畠中遺跡
1．調査区全景
2．同　上

図版10　加治神前畠中遺跡
1．調査区全景
2．同　上

挿図目次

図1　貝塚市遺跡分布図

図2　地蔵堂廃寺調査位置図

図3　調査地概略図

図4　遺構配置図

図5　A区出土土器

図6　地蔵堂遺跡調査位置図

図7　調査地概略図

図8　遺構配置図

図9　Pit－1出土土器

図10　加治神前畠中遺跡調査位置図

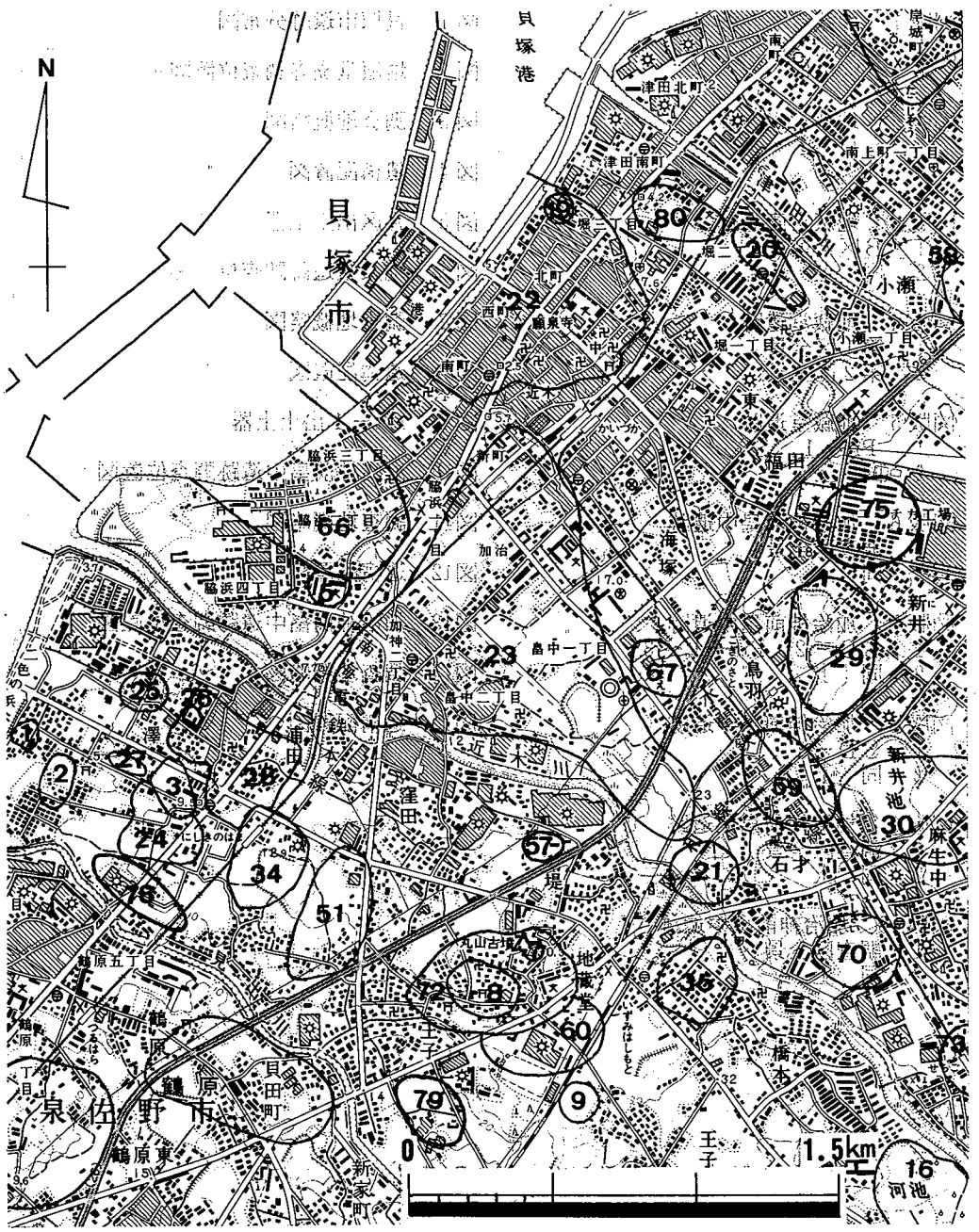
図11　調査地概略図

図12　遺構配置図

図13　加治神前畠中遺跡調査位置図

図14　調査地概略図

図15　遺構配置図



1．沢新出遺跡　2．沢海岸遺跡　3．沢遺跡　5．長楽寺跡　7．丸山古墳　8．地蔵堂廃寺跡　9．下新出遺跡　16．河池遺跡　19．泉州麻生塩壺出土地　20．堀遺跡　21．橋本遺跡　22．貝塚寺内町遺跡　23．加治神前畠中遺跡　24．明楽寺跡　25．沢共同墓地遺跡 26．沢西出遺跡　27．沢海岸北遺跡28．沢城跡 29．新井鳥羽遺跡 30．新井ノ池遺跡　34．澱池遺跡　35．積善寺城遺跡　51．窪田遺跡　57．堤遺跡　58．小瀬五所山遺跡　59．石才遺跡　60．王子遺跡　66．脇浜遺跡　67．今池遺跡70．石才南遺跡　72．地蔵堂遺跡　73．名越西遺跡　75．新井鳥羽北遺跡　78．沢西遺跡　79．王子西遺跡　80．津田遺跡

図1　貝塚市遺跡分布図

Ⅰ　地蔵堂廃寺跡の調査

1.　位置と環境（図２）

調査を実施したのは貝塚市北西部に位置する地蔵堂廃寺跡の一角である。

地蔵堂廃寺跡は、貝塚市と泉佐野市との境をなす見出川右岸の海抜約20～25ｍを測る段丘上に位置する。東西約 180ｍ、南北約 200ｍの範囲がマークされている平安時代後期の寺院跡である。

周辺に散在する遺跡としては、本廃寺跡も含まれる地蔵堂遺跡、北には全長約70ｍを測り、古墳時代後期の前方後円墳である国指定史跡丸山古墳、南には中世の集落跡である王子遺跡、東西に走る熊野街道、東には中世末根来衆の砦となった積善寺城跡等、交通・生活の要所となった地域である。

今回の調査地は遺跡マークの東北部にあたる海抜約24ｍを測る地点、地蔵堂92－２他である。

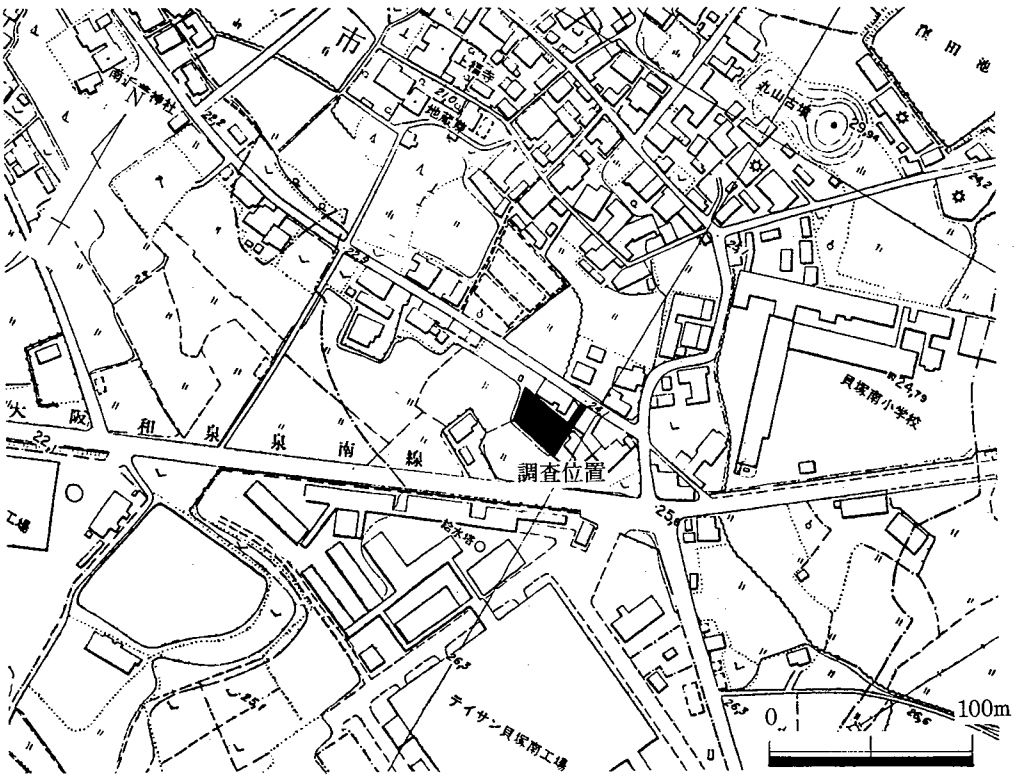


図２．地蔵堂廃寺跡調査位置図

2. 調査の概要（図３）

開発計画に基づき、調査地内北端中央部に東西方向に 1.5ｍ×３ｍ、中央部に南北方向に 1.5×６ｍの２カ所の調査区を設定し、前者をA区、後者をB区とした。

調査地内における基本層序は、盛土（約20㎝）、旧耕作土（約20㎝）、床土（約５ｍ）の下に層厚約20㎝を測る黄茶色粘質土、層厚約30㎝を測る淡黄褐色粘質土、層厚約40㎝を測る灰褐色粘質土が堆積し、その下に地山となる黄色粘土を検出した。また、床土下に堆積する各種粘質土は包含層であり、A・B両区から瓦、土師器、瓦器片等の遺物の出土を見た。以下、A区・B区についてそれぞれの概要について触れてみたい。

A区

地山面上にて溝１条を検出した。出土遺物は、包含層と溝から出土しており瓦、土師器、瓦器、須恵器の破片が出土している。

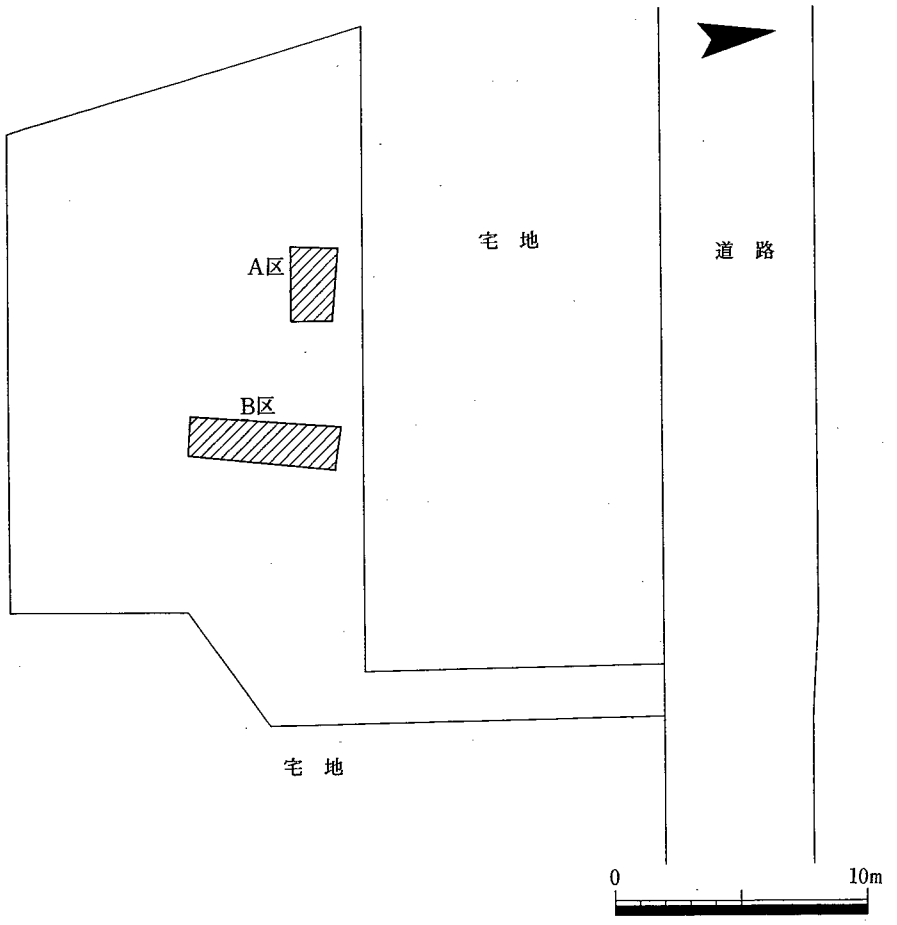
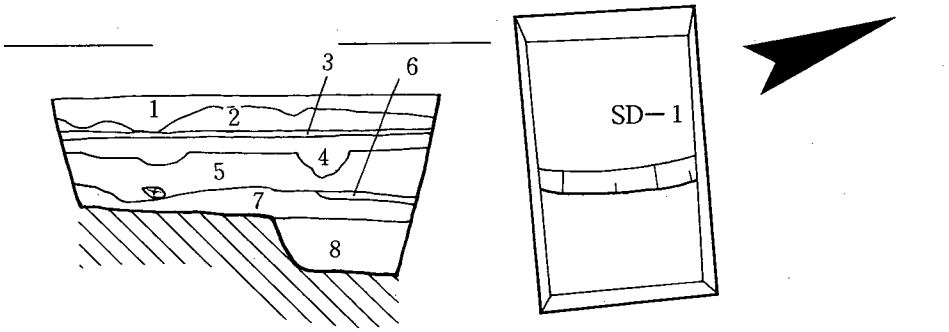


図３．調査地概略図



1．盛　土
2．耕作土
3．床　土
4．黄茶色粘質土
5．淡黄褐色粘質土
6．灰褐色粘質土
7．茶灰色粘質土
8．淡灰色細砂粘質土混り
9．灰褐色粘質土

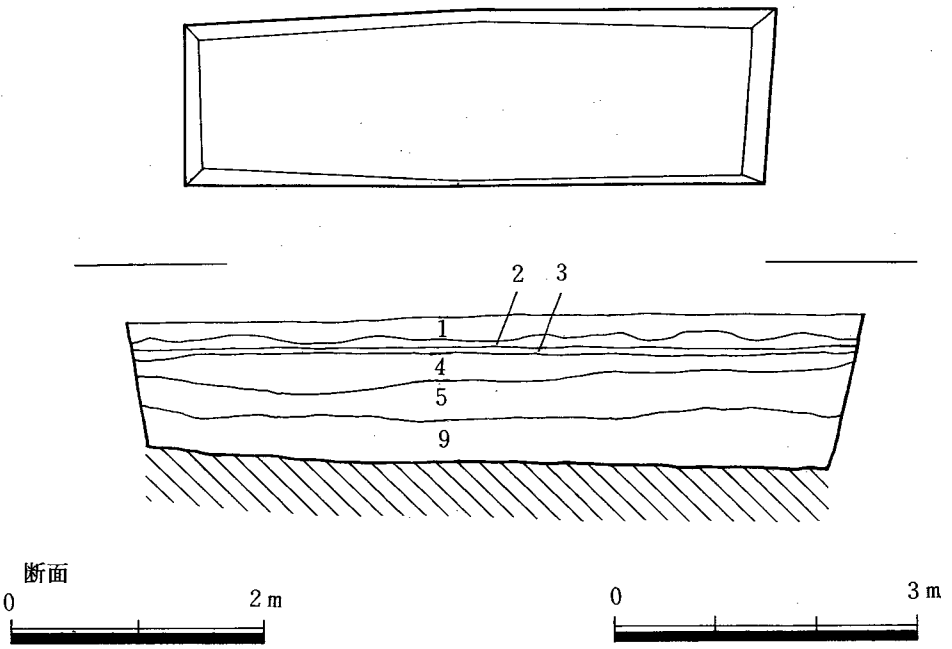


図４．遺構配置図

B区

包含層から遺物が出土したのみで、遺構は検出されなかった。包含層から出土した遺物は瓦、土師器、瓦器の破片のほか、小片であるが黒色器A類の破片も出土している。

3. 検出遺構（図4）

A区にて検出した溝について以下その概要を示す。

溝　SD－1

本遺構は、A区にて検出した溝である。調査区外にひろがるため溝の規模は不明であるが、現在の地形は北西に向かって緩やかに傾斜しており、このことから考えると南北方向からの流れが西に向かって変わる一部分ではないかと思われる。遺物は、瓦器、土師器、瓦の破片が出土しているが、その中でも特に瓦器の量が多といえる。

4. 出土遺物（図5）

包含層からの遺物は、多く出土しているが小片のため実測に耐えないものばかりであった。 以下、主にA区溝出土の遺物についてあげることにする。

1は復元口径11.8㎝を測る瓦器椀口縁部片である。胴部に指頭圧痕が残り、端部はナデで整える。

2は、復元口径約 8.4 ㎝を測る瓦器小皿口縁部片である。横方向のナデにより口縁部は短く外反する。また底部に指頭圧痕が残る。

3は、復元口径約17.2 ㎝を測る。 4は、復元口径約15.0 ㎝を測る瓦器椀口縁部片である。外面は指頭圧痕が残り、内面はヘラミガキを施す。

5は、高台径 2.4㎝を測る瓦器椀底部片である。高台は張り付けでその断面は丸い。外面には指頭圧痕が残る。内面調整は、摩滅が激しく不明である。

6は、復元口径20.4 ㎝を測る体部上位にかけての土師器羽釜片である。形状は口縁部が鍔部から内湾しながら立ち上がり、口縁部端部はほぼ平坦である。鍔部から口縁部にかけて外面に3段の段を有する。鍔部は欠損している。調整は、摩滅しているため外面調整については不明である。調整は内面は摩滅のため図示できなかったが、横位ハケメを施している。色調は、内外面暗い暗茶褐色を呈す。

7は、復元口径27.0 ㎝を測る瓦質鉢口縁部片である。口縁部のみ残存しており、形状は口縁部が直線的に外上方へ立ち上がり端部は断面三角形状を呈する。調整は内外面ナデ

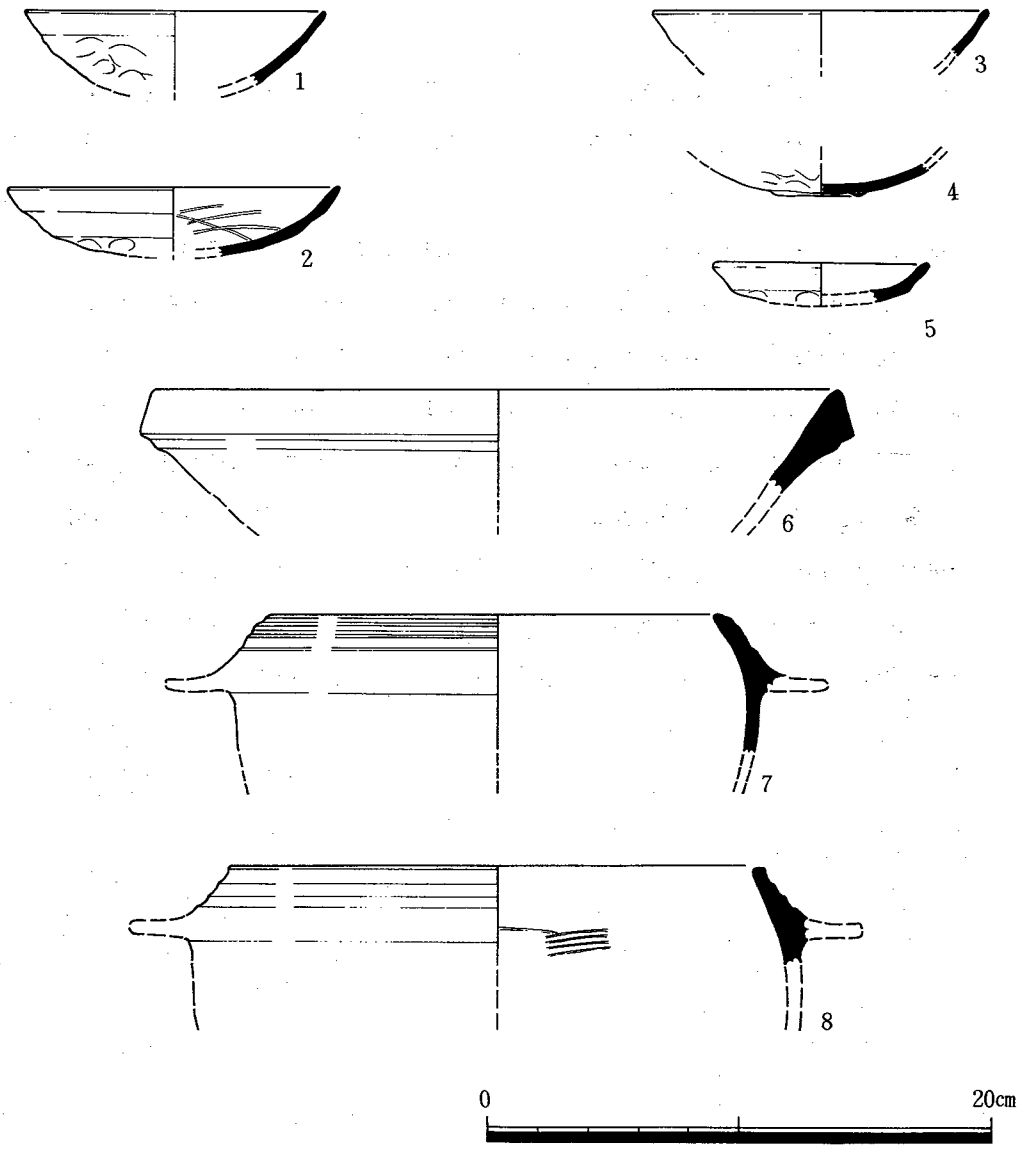


図5　A区出土土器

である。色調は、灰白色である。

8は、復元口径13.0cmを測る瓦器口縁部片である。口縁端部は横ナデを施し丸く修める。

5. まとめ

今回の調査では、中世の溝を検出することができた。トレンチ調査による面積的な制約のため検出した遺構の広がり、性格等について明確にすることができなかったが、一応の成果は得られたものと思われる。

遺構は溝一条を検出したのみにとどまったが、本地域にまで中世の遺構が広がっていることが確認でき、また、地山面が深い場所にあったことから地蔵堂遺跡～地蔵堂廃寺跡内における地形変化、未調査部分の遺跡のありかたを考える情報が得られたものと思われる。

本廃寺跡では、遺跡マーク地のほぼ中心部に位置する正福寺境内の昭和56・57年度の調査において、平安時代後期の塔基壇・雨落ち溝等を検出し、本廃寺跡の遺存状態が良好なことが確認されている。今回の調査地はこの調査地点より 100m離れているため、検出した遺構が寺院に関係するものではないが、正福寺境内の調査以外ほとんど調査が行われていない現状から考えると、この地域には遺構が存在する可能性が高いと云えよう。

今後、周辺の中世遺構と共にこれらの遺構を明かにしていきたい。

II 地蔵堂遺跡の調査

1. 位置と環境（図6）

発掘調査を実施したのは貝塚市北西部に位置する地蔵堂遺跡の一角である。

地蔵堂遺跡は、貝塚市と泉佐野市の境をなす見出川右岸の段丘上に位置し、東西約 550 m、南北約 300mの範囲に広がる古墳時代から中世までの複合遺跡である。海抜約20～26 mを測る。そのマーク地内には、国指定史跡丸山古墳や平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺跡が存在する。

周辺には、中世の集落跡である王子遺跡、東西に走る熊野街道、中世末の城跡である積善寺城跡等が存在する。

今回の調査地は遺跡マーク地内北東部にあたり、従前の調査にて円墳や方墳の埋没古墳が検出されている貝塚市立南小学校のすぐ西側の地点、地蔵堂 288 － 3 他地内である。海抜約25 mを測る。

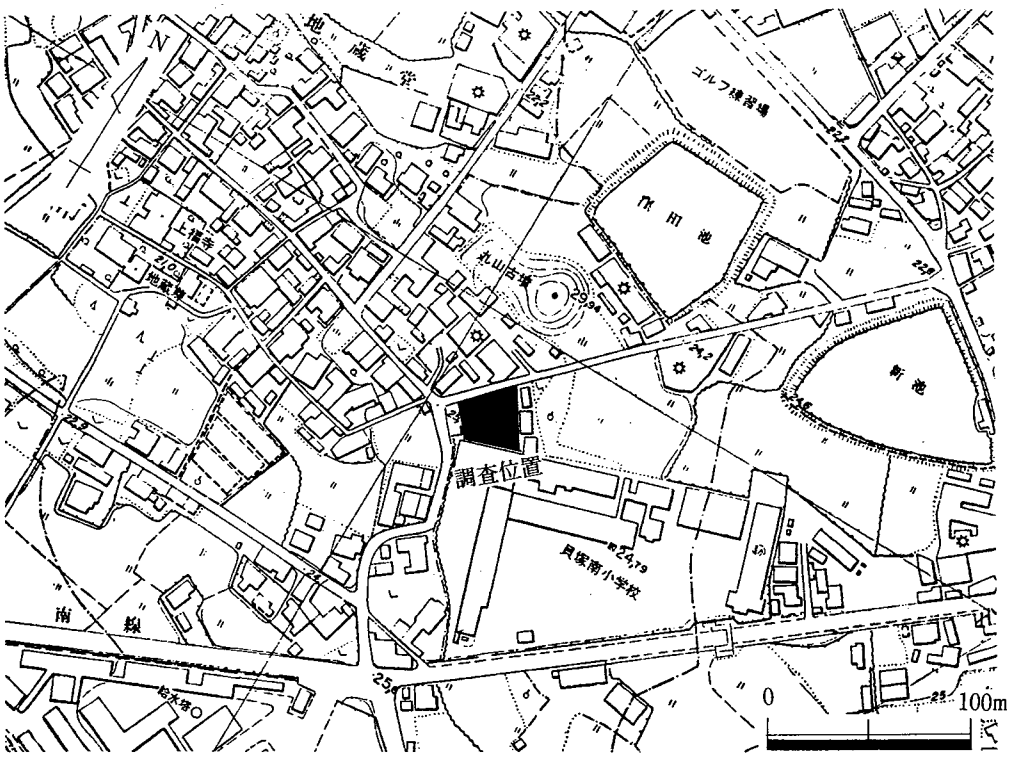


図6 地蔵堂遺跡調査位置図

2. 調査の概要（図７）

開発計画に基づき、調査地内南側に東西方向に約２ｍ×11ｍ、北側に東西方向に２ｍ×10ｍの２カ所に調査区を設定し、前者を第１区、後者を第２区とした。調査地内における基本層序は、盛土（10～30㎝）、旧耕作土（約10㎝）の下は礫を含む暗黄色粘土の地山であり、包含層は検出されていない。周辺部の地形から考えると調査地は段丘上でもやや高い所に位置しておりそのため削平を受けていることが想定される。

以下、第１区、第２区についての調査の概要について触れることにする。

第１区

地山面上にて性格不明遺構１と柱穴１を検出した。出土遺物は柱穴より土師器甕が出土

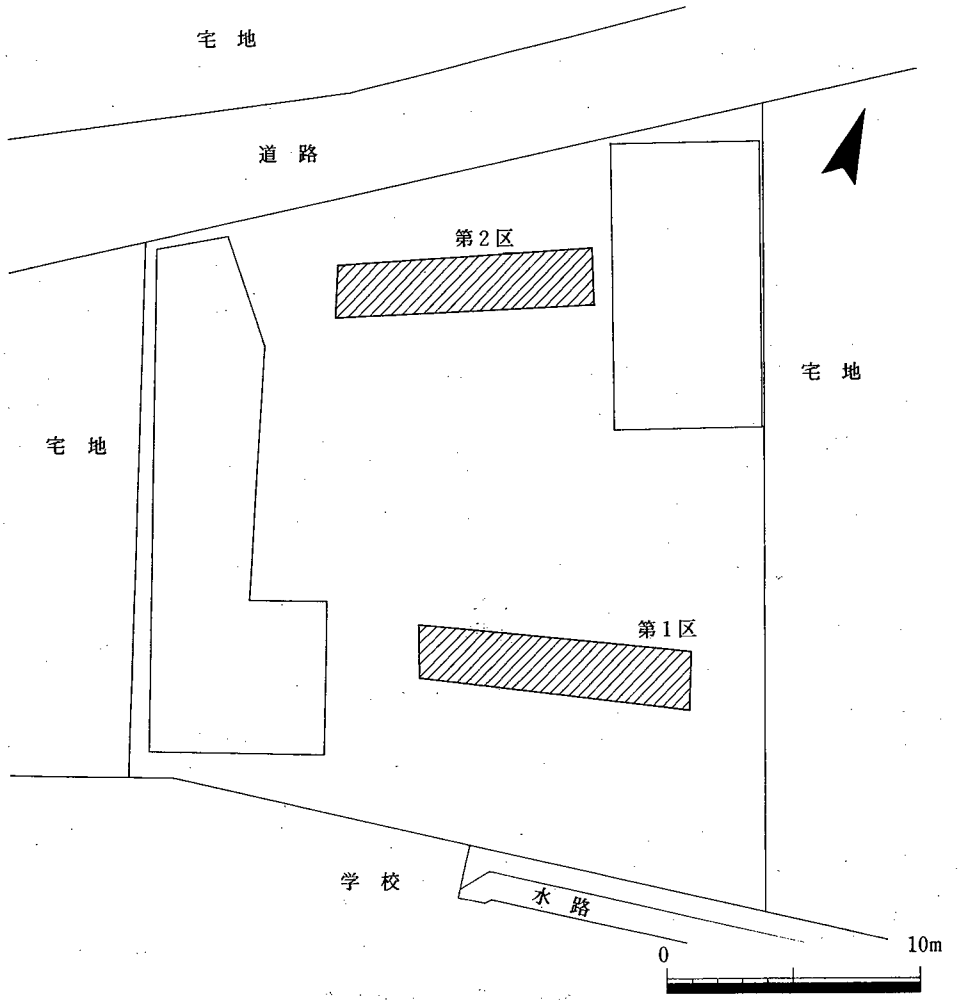


図７　調査地概略図

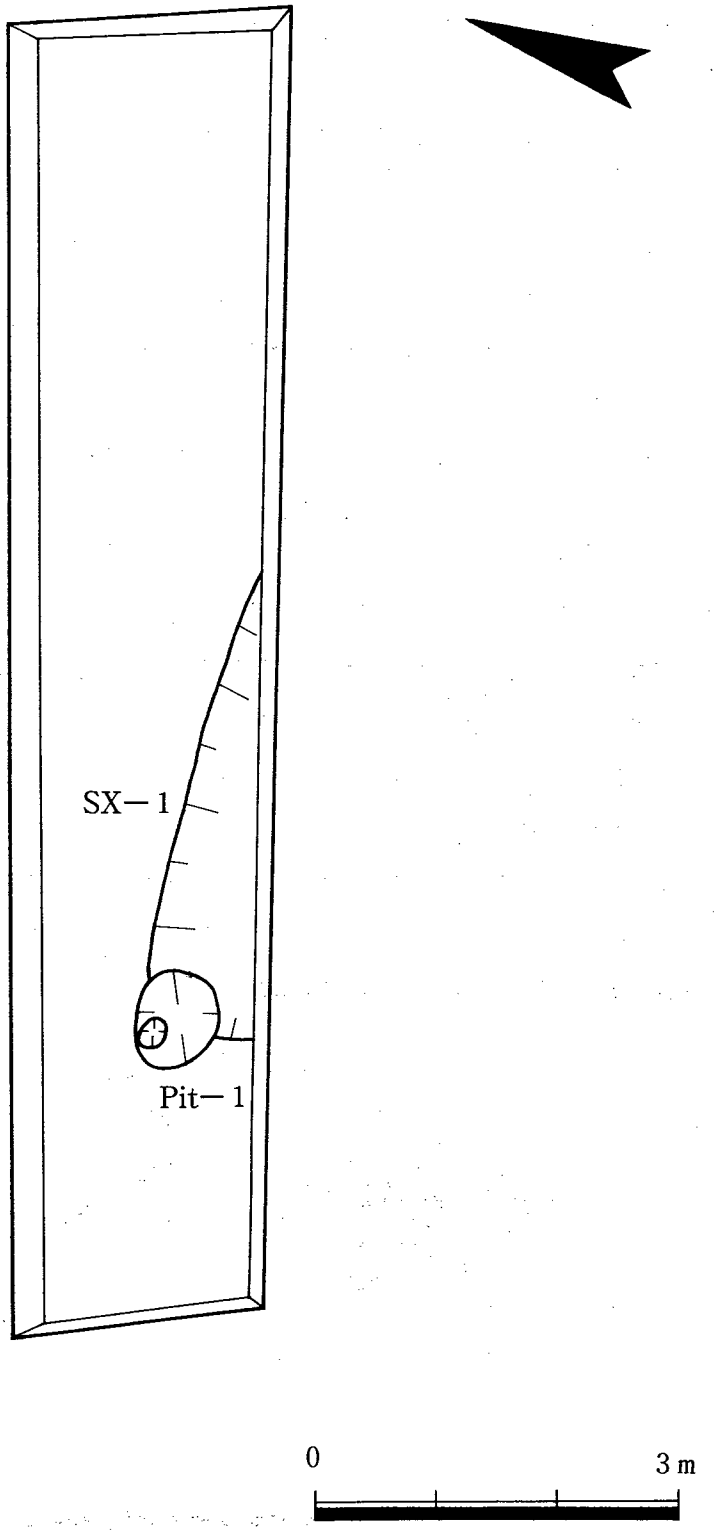


図 8．遺構配置図

した外は周辺部表採の磁器、陶器片だけであった。

第２区

地山がかなり削平を受けており遺構は検出されなかった。出土遺物は、調査区周辺で表採した磁器、陶器、瓦片のみであった。

3. 検出遺構（図８）

第１区にて検出いた柱穴、性格不明遺構について概要を示す。

柱穴　Ｐｉｔ－１

本遺構は、第１区西側に検出した直径約80㎝を測る柱穴である。中心よりやや西側から土師器甕が検出された。埋土は暗黄褐色土で地山の黄色粘土より色が暗くもろい同色の小礫を多く含む。

性格不明遺構　ＳＸ－１

本遺構は、第１区にて検出した性格不明遺構である。調査区外に広がるため全体の規模は不明である。埋土は暗赤茶色土で遺物は出土していない。

4. 出土遺物（図９）

９は復元口径約15.6㎝を測る口縁部から体部にかけての布留式期と思われる土師器甕片である。頸部はくの字上状であり、口縁部は直線的に外上方に立ち上がり、端部にかえりを有する。調整は、外面ハケメ、内面横位ケズリを施す。

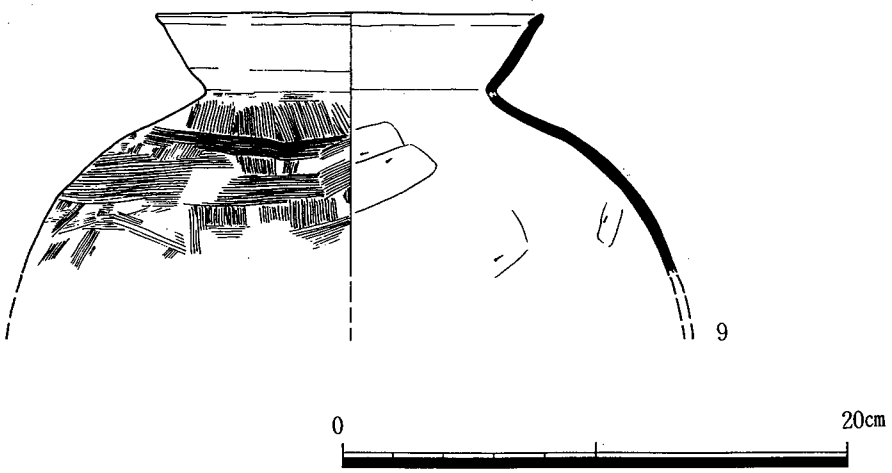


図９．Pit−1出土土器

5. まとめ

地蔵堂遺跡ではこれまでに数度の発掘調査が行われており、古墳時代中期の埋没古墳群や中世の集落跡が検出されており、多くの成果が得られている。今回の調査は、これらの調査に関連した成果は得られなかったが、新しい成果が得られた。

調査地内には遺物包含層が全く存在せず、盛土を除去した状態にて黄色粘土の地山面を検出した。周辺の現地盤にてもすでに地山面が露出しており、調査地周辺はすでに大きく削平されていることが分かる。そのような状況下において、古墳時代の遺構を検出したことは大きな成果と云えよう。

検出遺構、出土遺物の量としては決して多いと云えないが、従前の調査では埋没古墳以外の古墳時代の存在は確認されておらず、本調査周辺に古墳時代の集落跡等が眠っていることが充分考えられ、今後これらの遺構を明らかにし、さらに、丸山古墳等の古墳群との直接、間接的なつながり等について解明していきたい。

Ⅲ－1　加治神前畠中遺跡の調査

1. 位置と環境（図10）

調査を実施したのは貝塚市西部に位置する加治神前畠中遺跡の一角である。

加治神前畠中遺跡は、貝塚市のほぼ中央を縦断する近木川右岸の段丘上に位置し、東西約1500m、南北約1200mの範囲に広がる古墳時代から近世までの集落跡である。海抜は約6～20mを測る。

周辺には、中世末から近世にかけて繁栄した貝塚寺内町遺跡、縄文時代後期から中世の集落跡が検出された脇浜遺跡、中世の城跡である沢城跡、中世から続く橋本墓地、古墳時代の集落跡と思われる今池遺跡などが存在し、古くから人々の生活の舞台となった地域である。

今回の調査地は遺跡マーク内東部にあたり、海抜約18mを測る地点、畠中1丁目地内である。

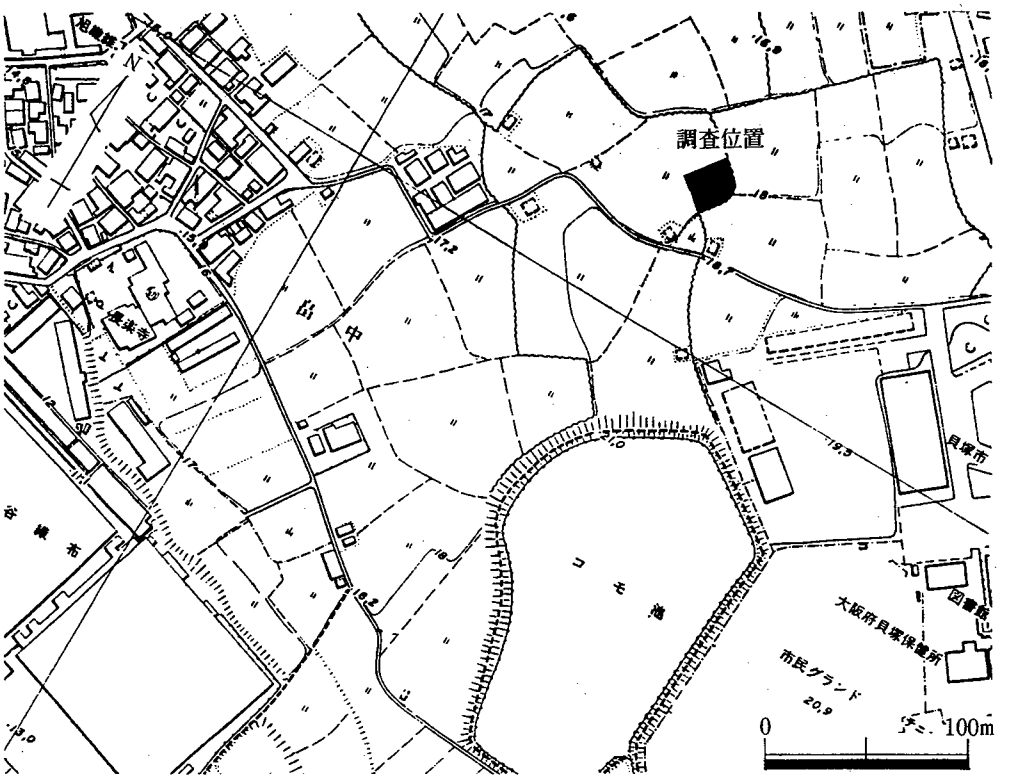


図10．加治神前畠中遺跡調査位置図

2. 調査の概要

開発計画に基づき、調査地内西隅１ｍ×10ｍの調査区を設定し調査を行った。調査地の現状は水田であり、調査地内における基本層序は、耕作土（約20㎝）、床土（約30㎝）の下に、層厚約20㎝を測る淡黄褐色土（包含層）が堆積し、その下に地山となる黄色粘土を検出した。調査地周辺の状況は、段丘上に位置しており平らな田畑が広がるわずかに海側に向かって傾斜している。調査では地山面上にて溝を２条とピット３を検出した。

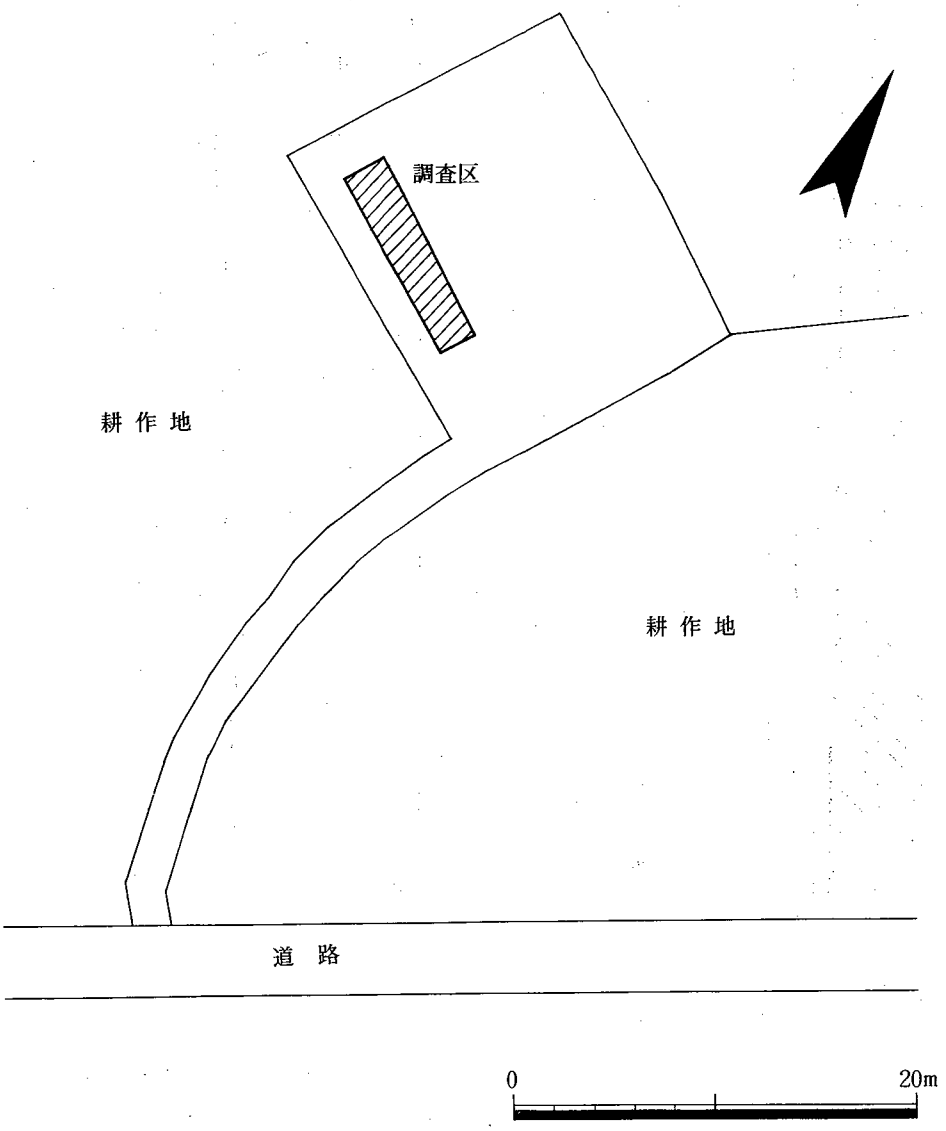


図11．調査地概略図

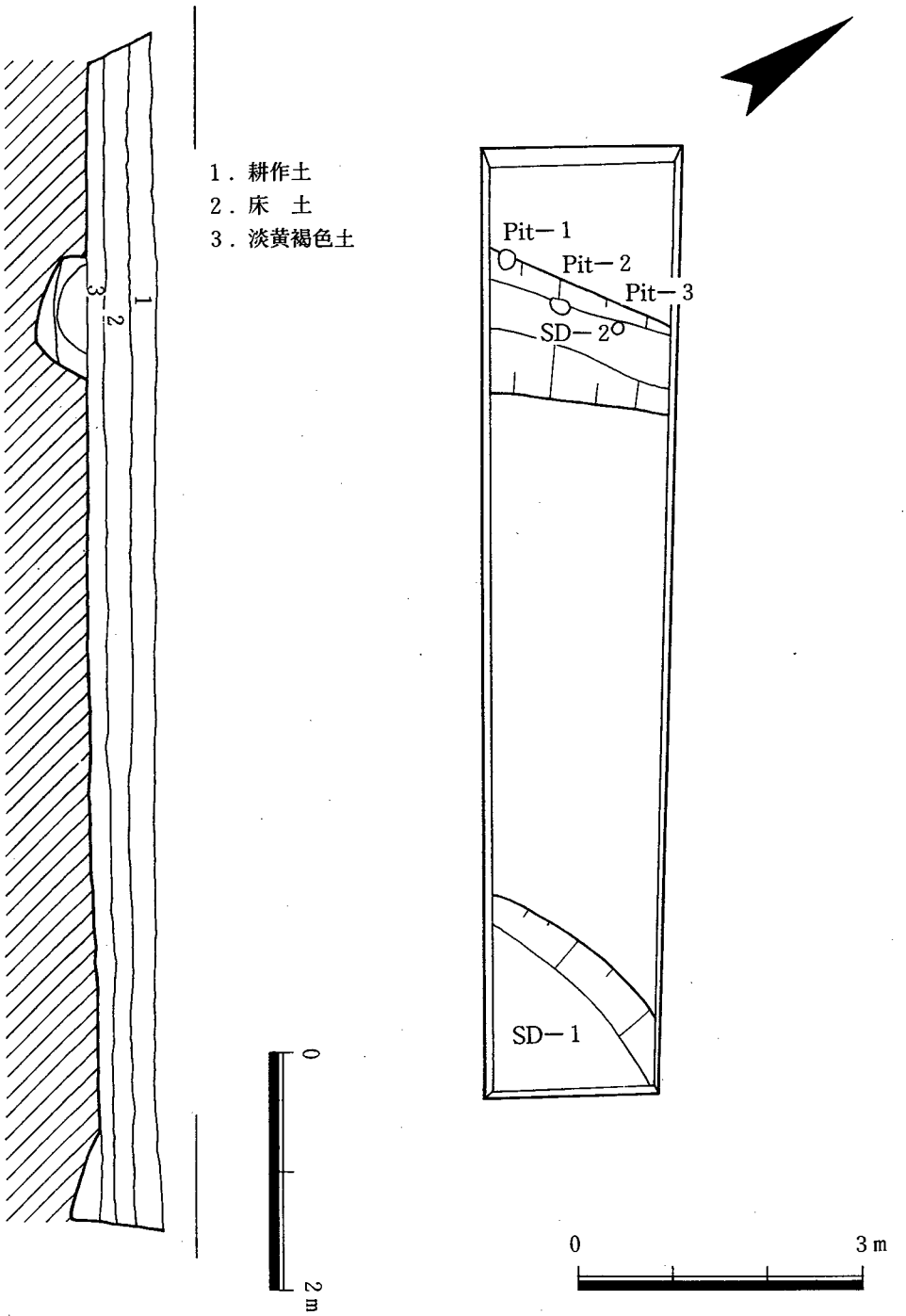


図12．遺構配置図

3. 検出遺構（図12）

溝ＳＤ－１

本遺構は調査区東端にて検出した溝である。調査区外に広がるため規模は不明であるが、遺構の広がりから推測すると東西方向に伸びる溝と考えられる。埋土は、暗黒褐色粘質土で底に同色のやや粗い砂が堆積する。出土遺物は、土師器片が出土している。

溝ＳＤ－２

本遺構は、調査区西にて検出した幅約 1.2ｍを測る溝である。溝は、南西－北東方向に伸び、深さ40㎝を測る。埋土は暗黒褐色土の下に淡灰褐色土、底に暗黄褐色砂が堆積する。

柱穴　Ｐｉｔ－１～３

Ｐｉｔ－１～３は、直径約20㎝を測る埋土暗灰褐色土の柱穴である。ＳＤ－２を切っており西南－東北方向に約70㎝間隔で並んでいる。建物跡の可能性は少なく調査区外に広がるためその規模性格等は不明である。

4. 出土遺物

出土遺物は包含層中より土師器、瓦器片等が出土しているほかＳＤ－１より土師器片が出土しているが、すべて小片であり実測できるものはなかった。出土遺物の時期についてであるが、包含層より出土のものは中世のものがほとんどで若干近世とおもわれる磁器が出土している。また、ＳＤ－１より出土した土師器についてであるが、その形状から判断すると古墳時代までさかのぼる可能性のあるものである。

5. まとめ

今回の調査では、保存状態の良好な遺構が検出できた。トレンチ調査による面積的な制約のため検出した遺構の広がり、性格等について明確にすることができなかったが、一応の成果は得られたものと思われる。

調査地の南東は、加治神前畠中遺跡において古墳時代から中世にかけての遺構が集中的に検出される地域である。今年度も本調査地の南に近接する地点にて調査をおこなったが平安時代を中心に遺構を多数検出している。しかし、これらの遺構を多数検出する地点はほぼ明らかになっているとは云え、広がりは明確にされていなかった。今回の調査は検出した遺構の状況からほぼ遺構集中地の北西端を明らかにできたと云えよう。

Ⅲ－2　加治神前畠中遺跡の調査

1.　位置と環境（図13）

今回の調査地は、先述のような状況下の遺跡マーク地内北西部にあたり、海抜約11ｍを測る地点、海塚3－373他地内である。

2.　調査の概要（図14）

開発計画に基づき、調査地内南隅に 2.5ｍ×8ｍの調査区を設定し調査を行った。調査地内における基本層序は、盛土（約10～30㎝）下に、層厚約20㎝を測る暗茶褐灰色土、層厚約20㎝を測る暗茶褐色土、層厚約10～30㎝を測る暗茶褐色土が堆積し、その下に地山となる黄色粘土検出した。盛土下は包含層であるが、建物除去時に攪乱を受けている可能性があった。しかし、調査を行った結果、地山面上にて溝を1条検出したほか、包含層より瓦器片、土師器片等の遺物を検出した。

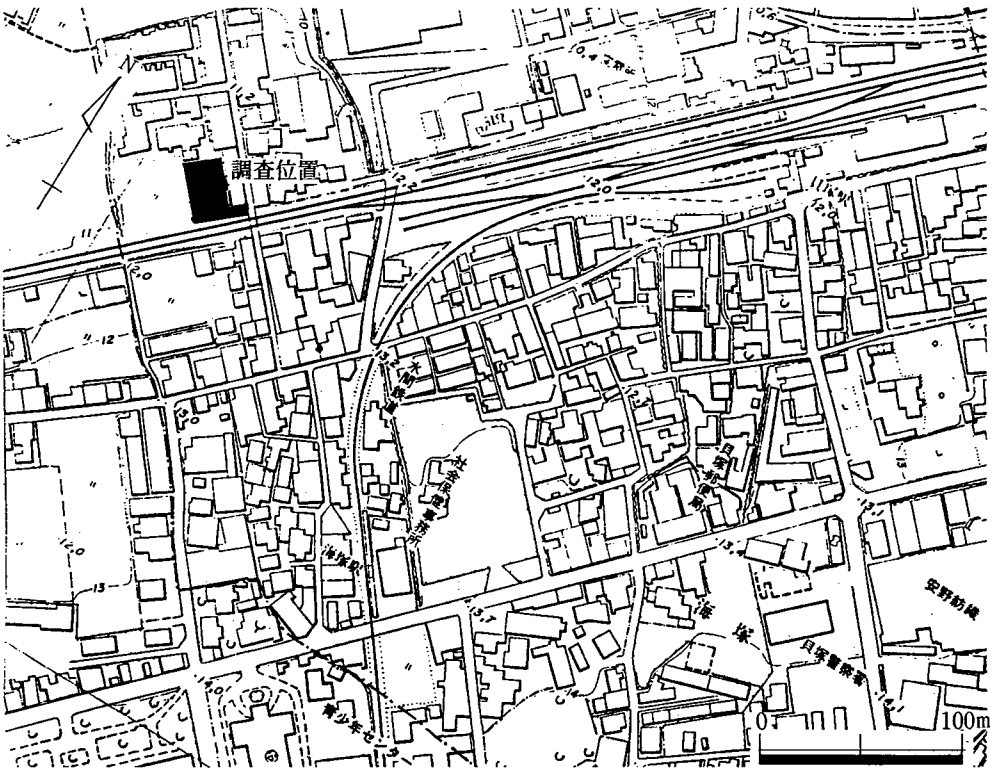


図13．加治神前畠中遺跡調査位置図

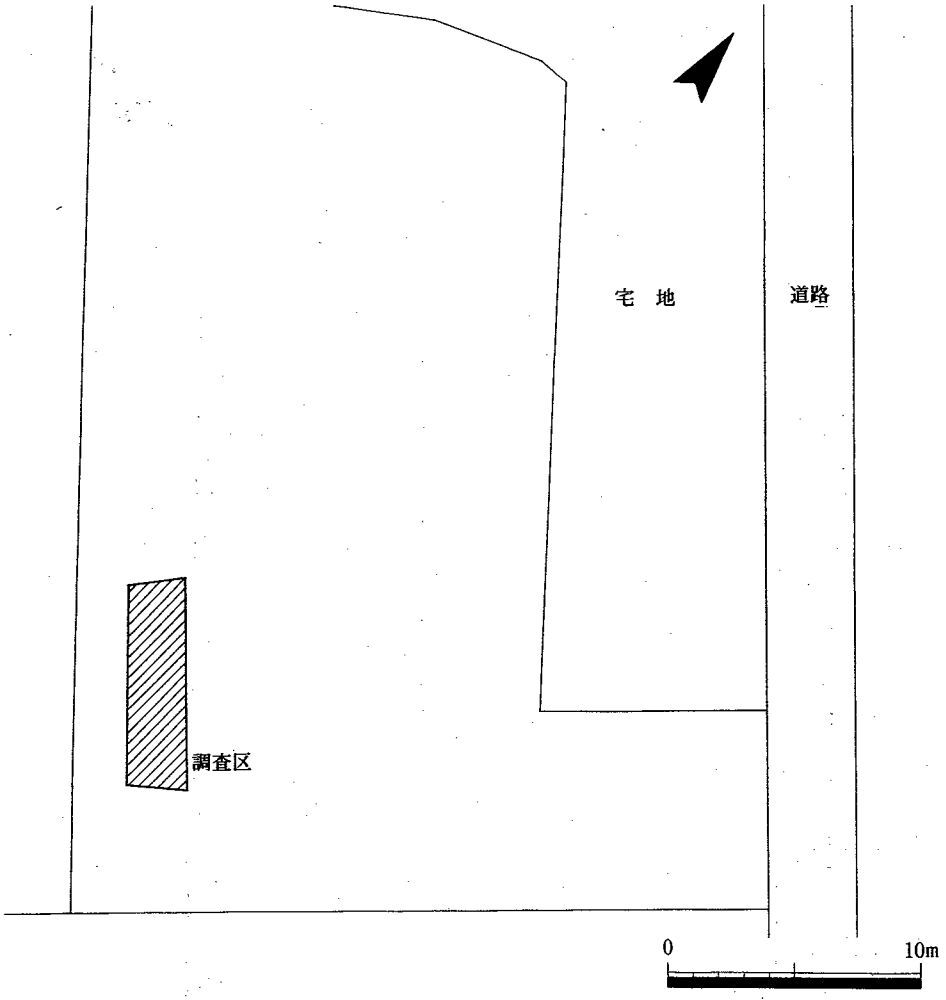


図14．調査地概略図

3．検出遺構（図15）

調査区南において溝１条を検出した。以下概略を示す。

溝　ＳＤ－１

本遺構は調査区南にて検出した最大幅約 3.3ｍを測る溝である。埋土は暗灰黒色粘土で深さは約60㎝である。検出された溝の方向は南西―北東方向に走っており貝塚寺内町の南の境界、境川に流れていた可能性がある。遺物は、検出されていない。

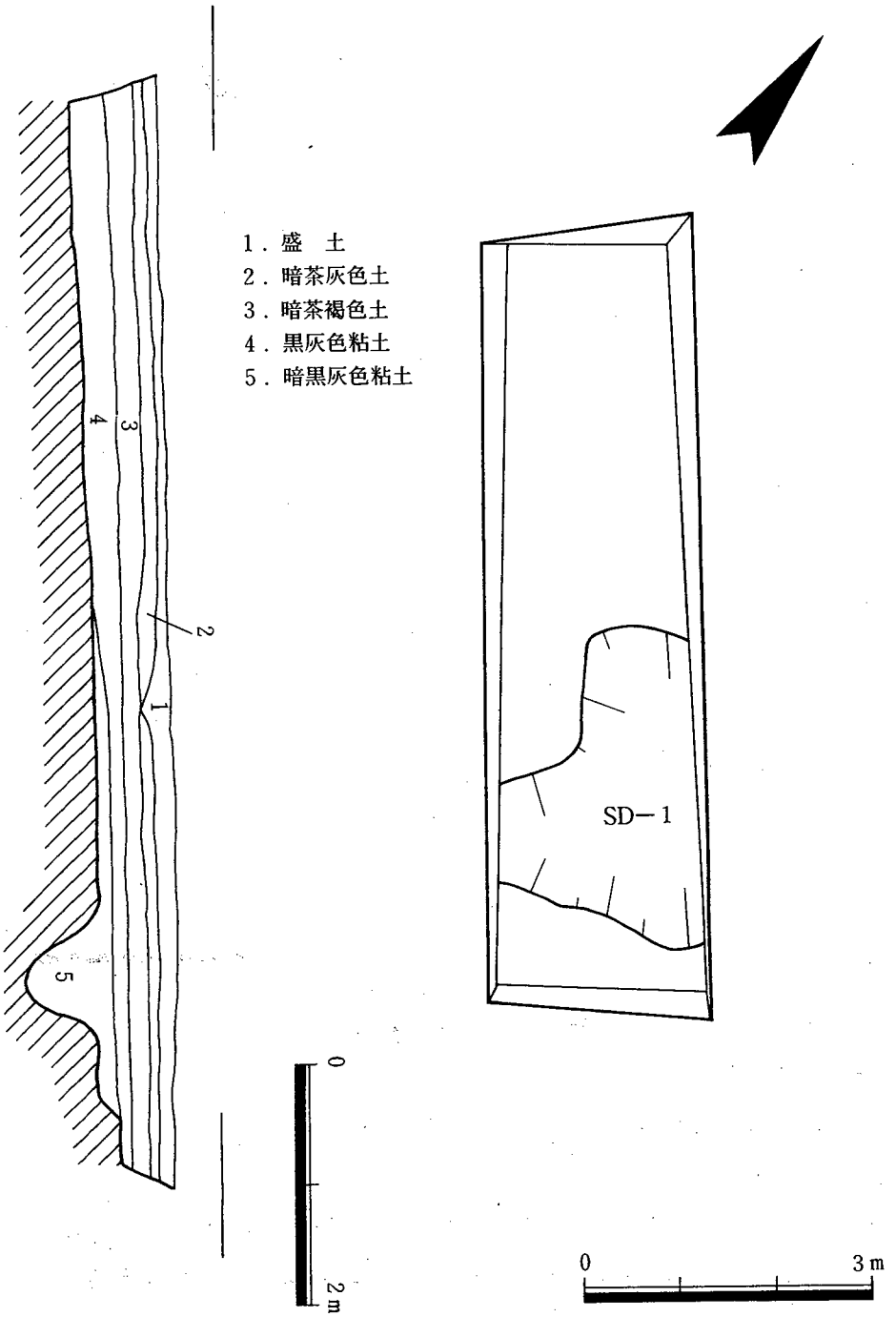


図15．遺構配置図

4. 出土遺物

包含層から瓦器片、土師器片が出土しているがいずれも小片のため実測不可であり、報告に耐えないものばかりであった。出土遺物は、瓦器、土師器の中世のものが主であり、近世の陶器、磁器の遺物は多く表面採集されている。

5. まとめ

今回の調査は様々な制約下での調査であったが、一応の成果が得られたものと思われる。

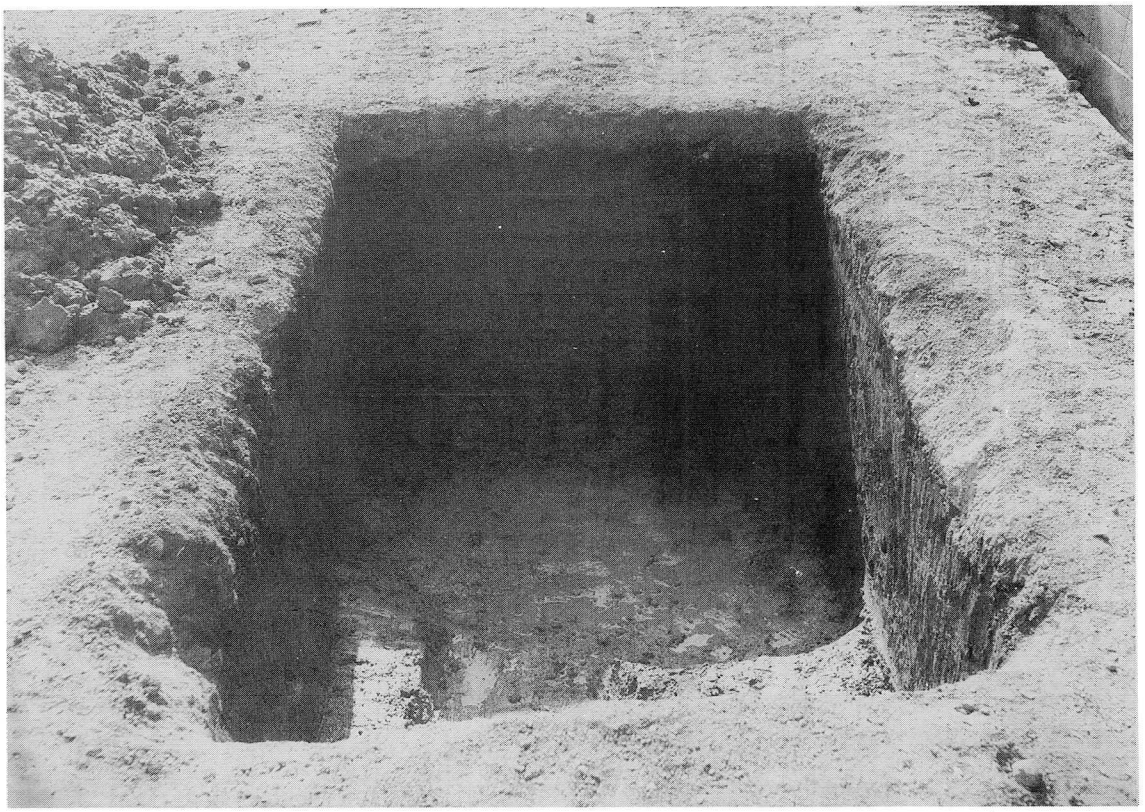
遺構としては、溝1条のみの検出ではあるが、遺存状態は良好であり、本調査地周辺にも遺構が存在することが確認できた。遺物については少量の出土であり、すべて包含層出土のものである。だが、本調査地周辺には良好な包含層が存在することが確認できた。

本調査地を含む加治神前畠中遺跡北部にあたる地域は従前の調査例が少なく、その変遷は明確ではなかった。また、近代における窯業用胎土採掘により、現地形は大きく削られている。本調査では、当地域にもかつては遺構が存在していたことが明らかとなり、大きく地形が変えられているとは云え、詳細な調査を行うことにより、遺構を確認する可能性が充分あるという成果が得られた点で重要である。

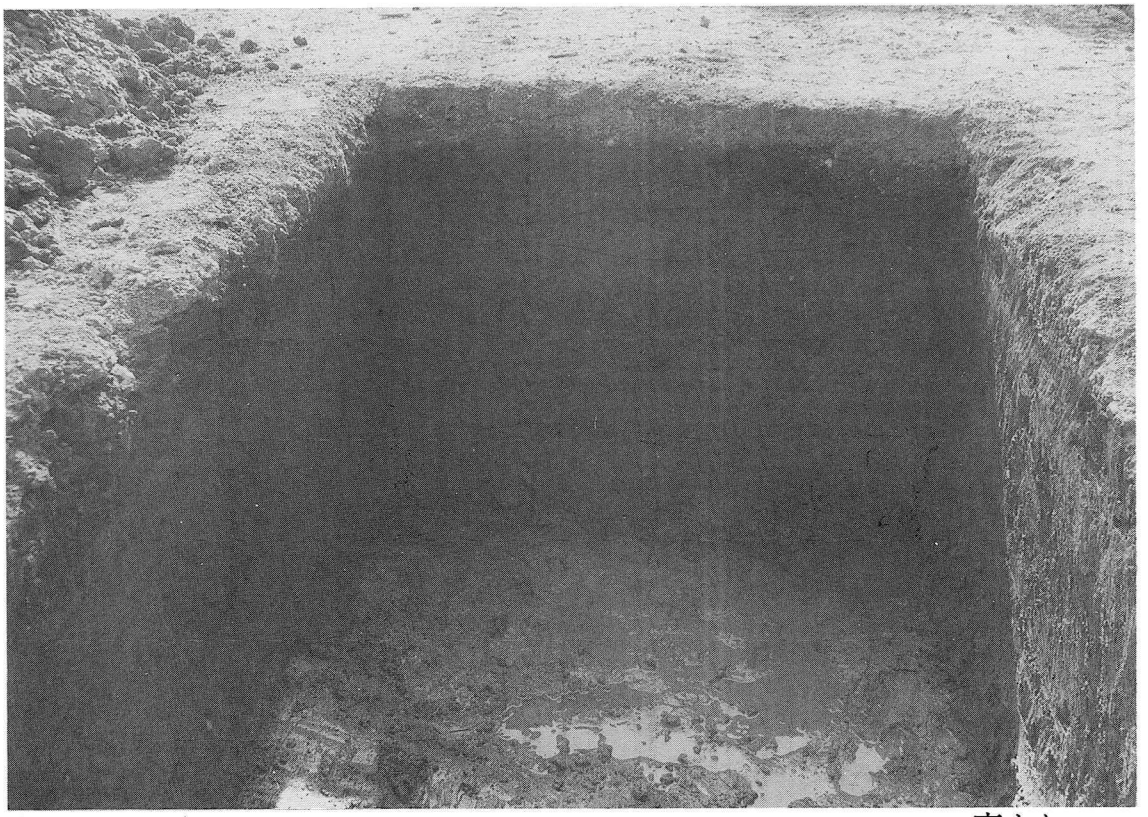
図　　版

図版1　地蔵堂廃寺跡

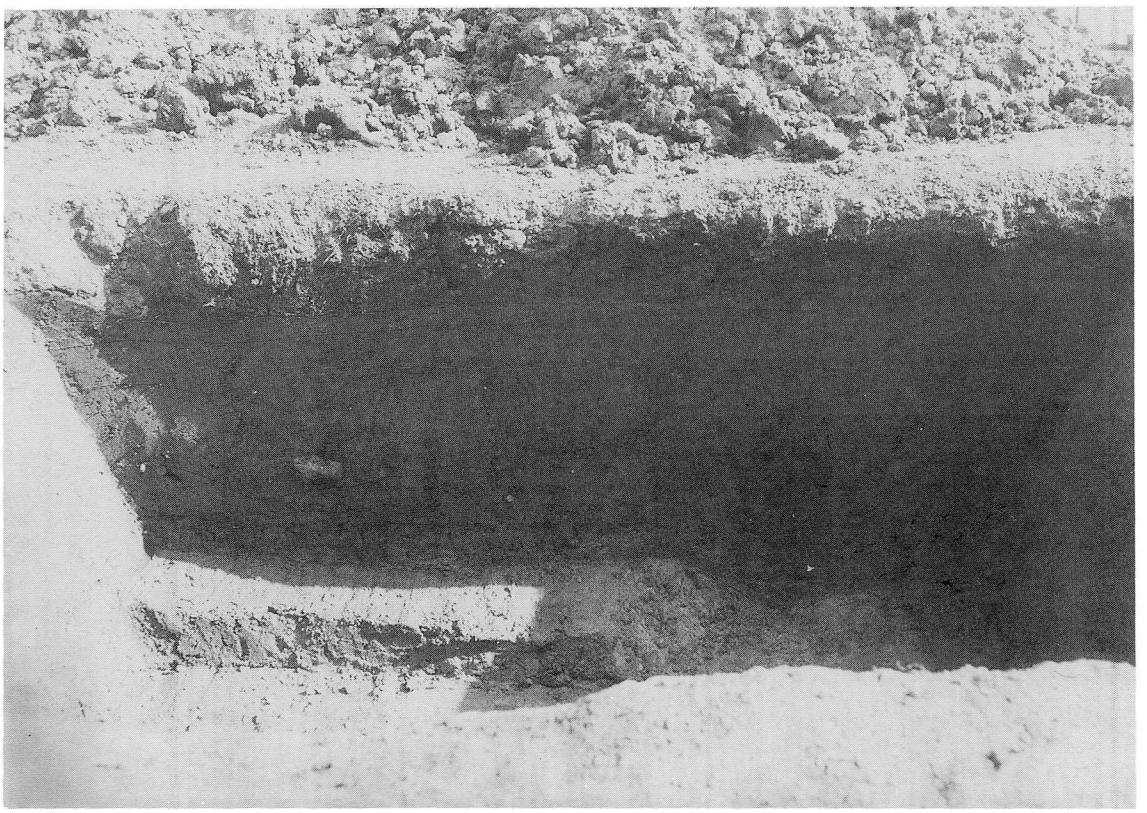
1.　調査区全景　　南東より



2.　A区全景　　東より

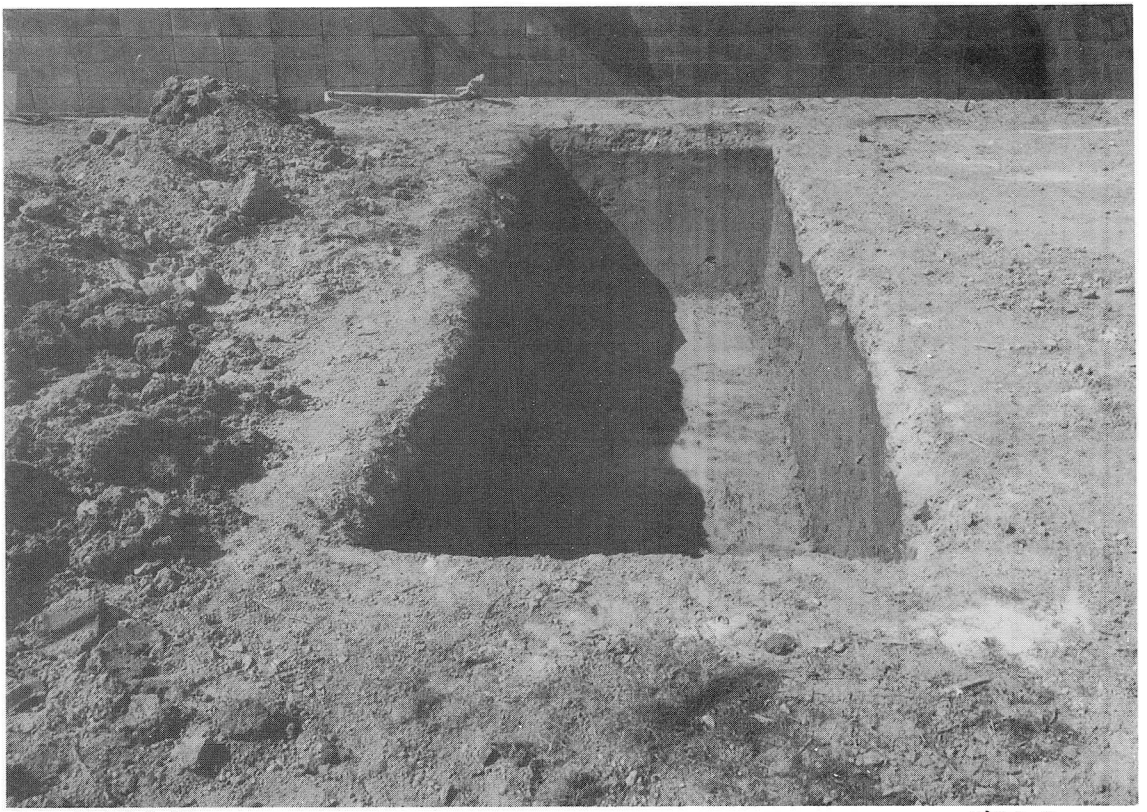


1.　ＳＤ－１　　東より

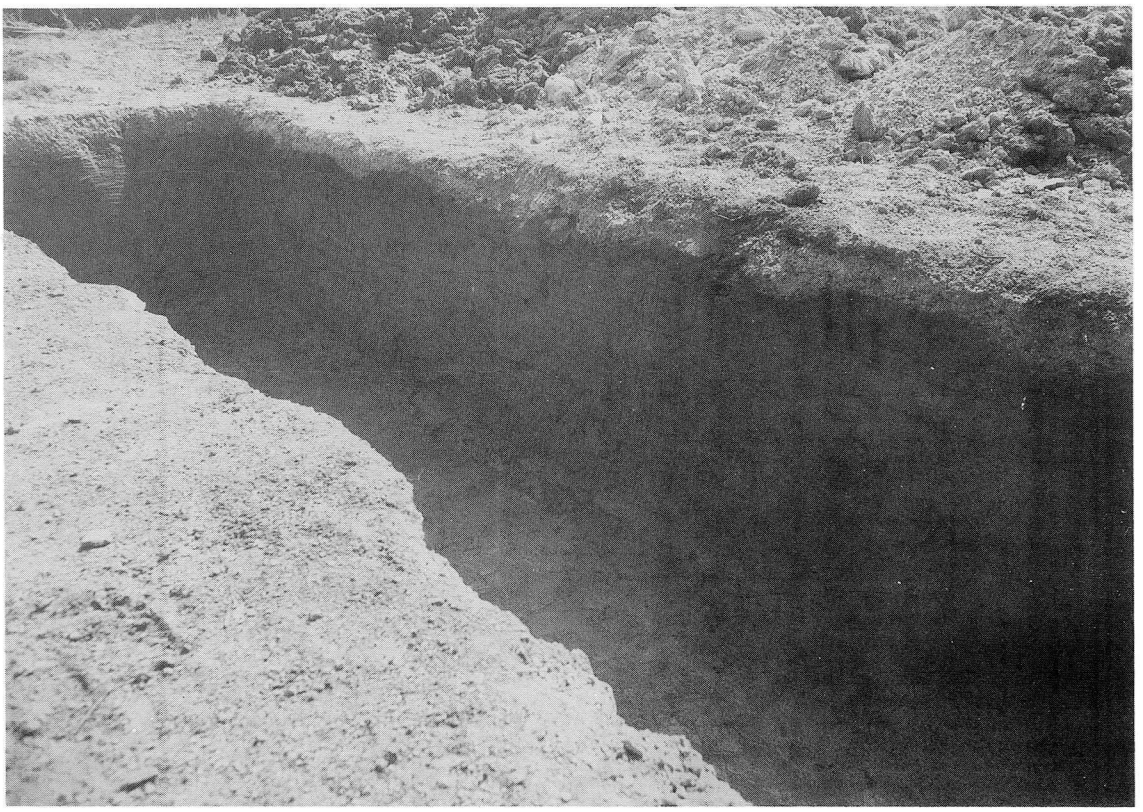


2.　同　上　　北より

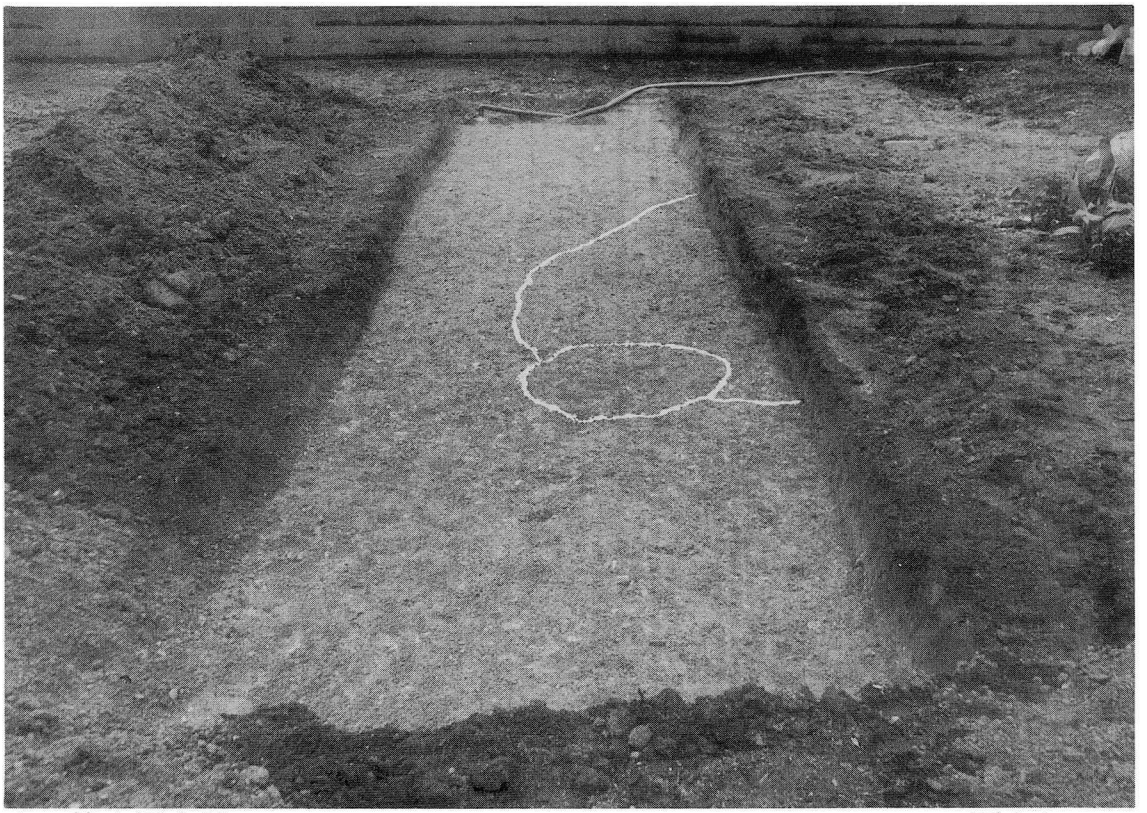
図版3　地蔵堂廃寺跡



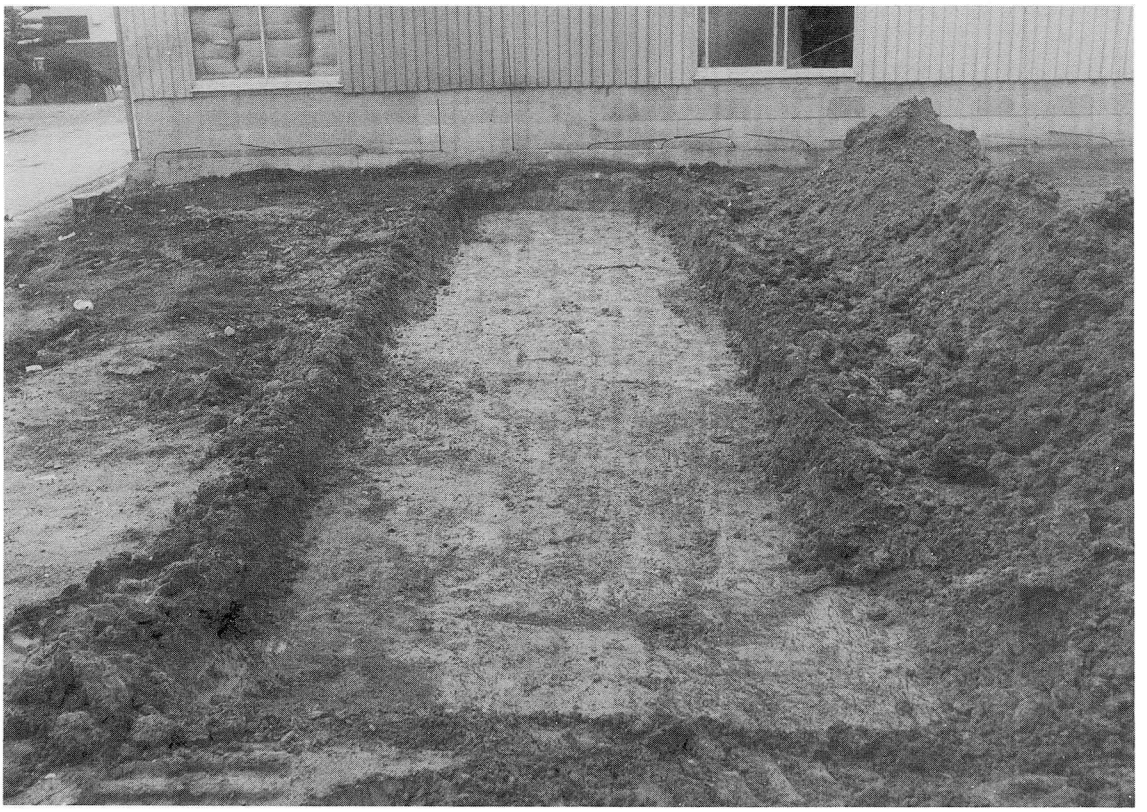
1.　B区全景　　南より



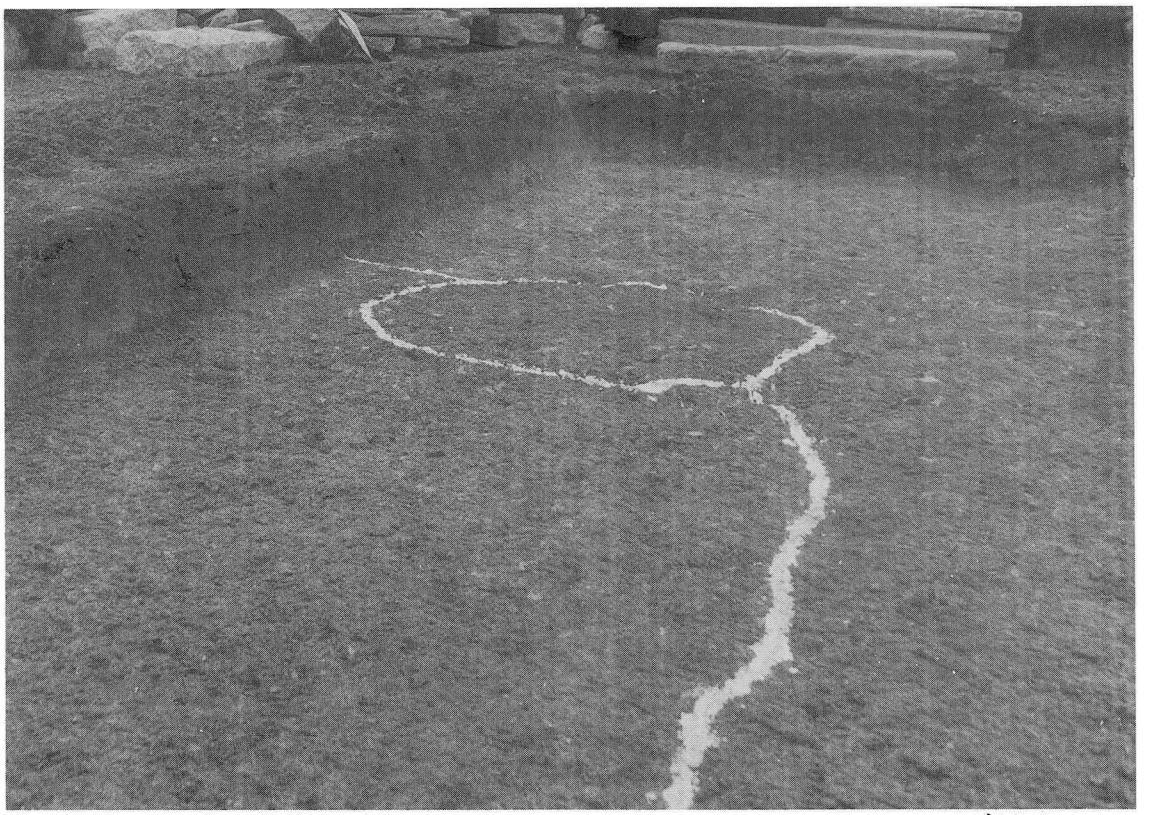
2.　同　上　　北東より



1.　第1区全景　　西より



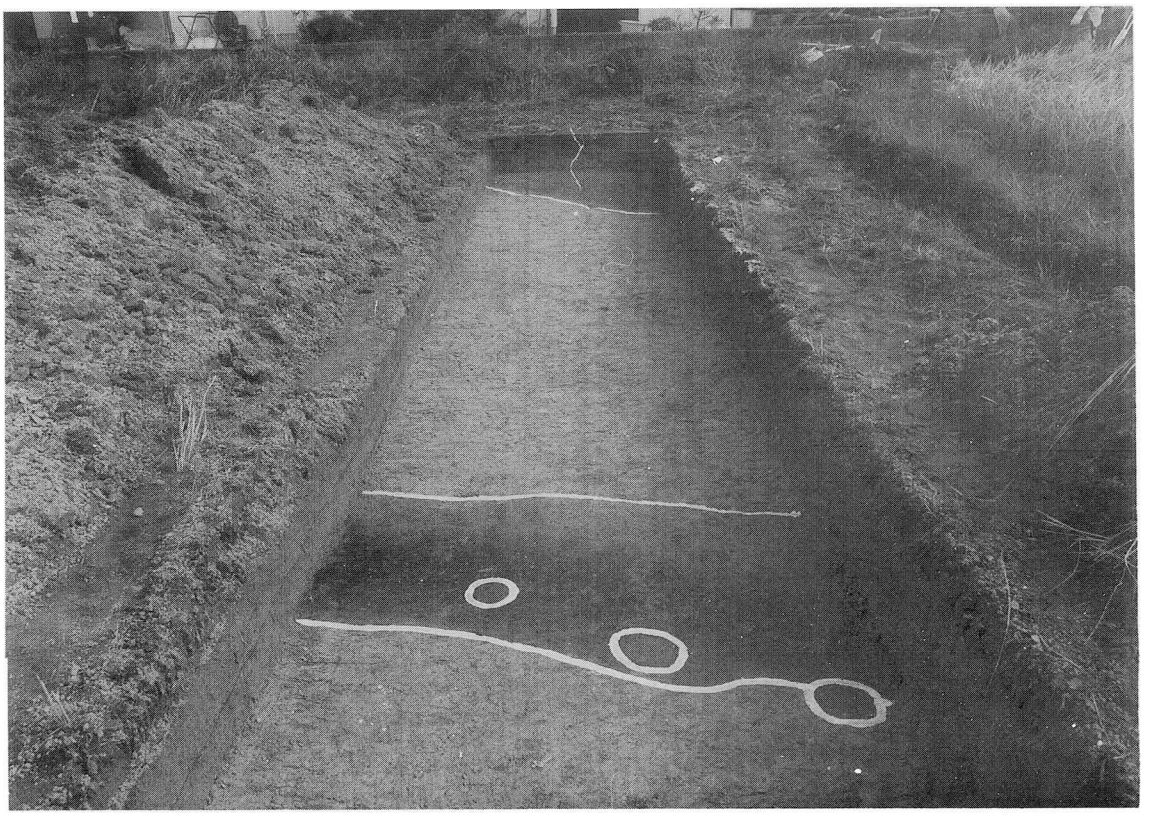
2.　第2区全景　　西より



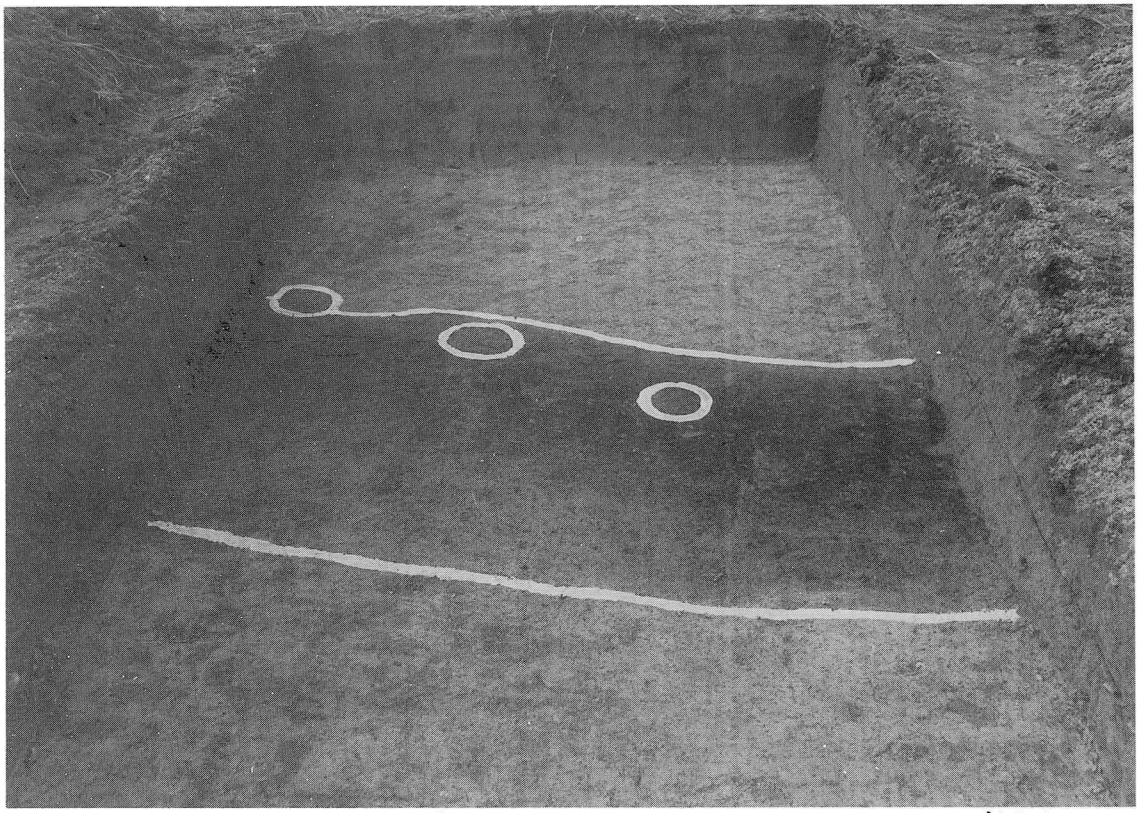
1. Ｐｉｔ－１，ＳＸ－１　　東より

2. 同　上　　西より

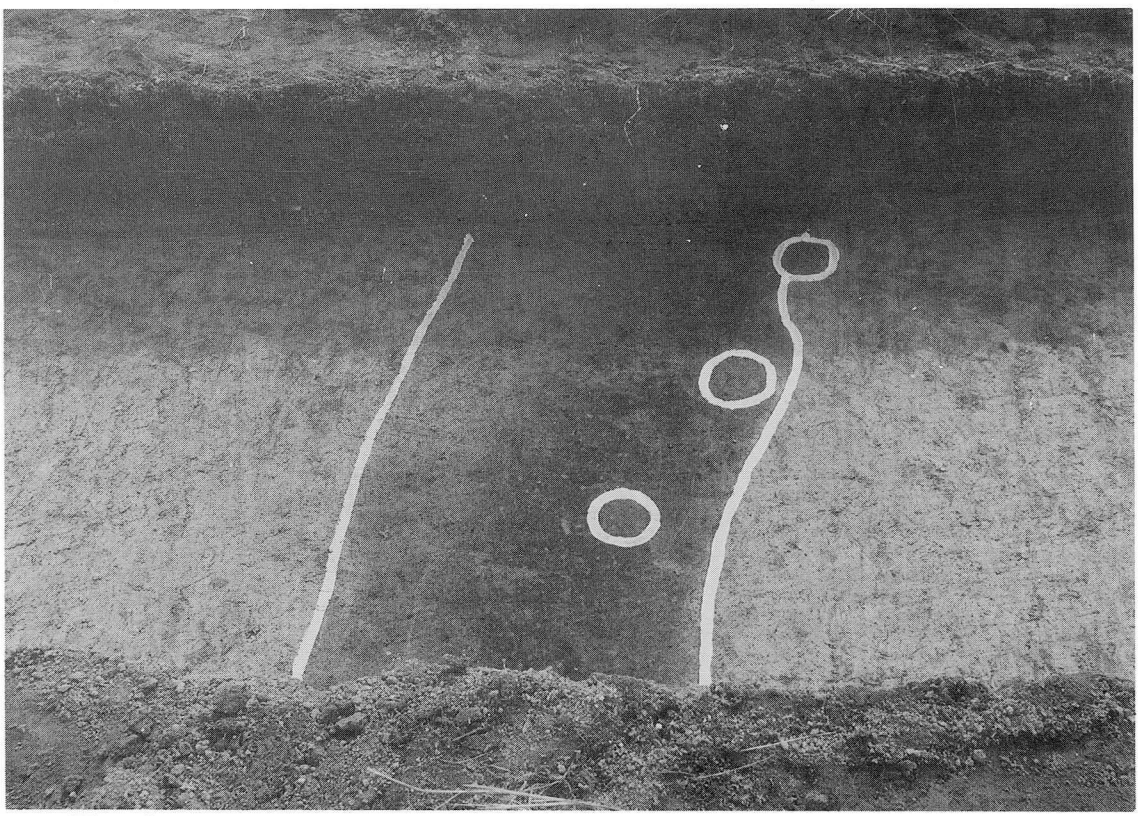
1.　調査区全景　　東より



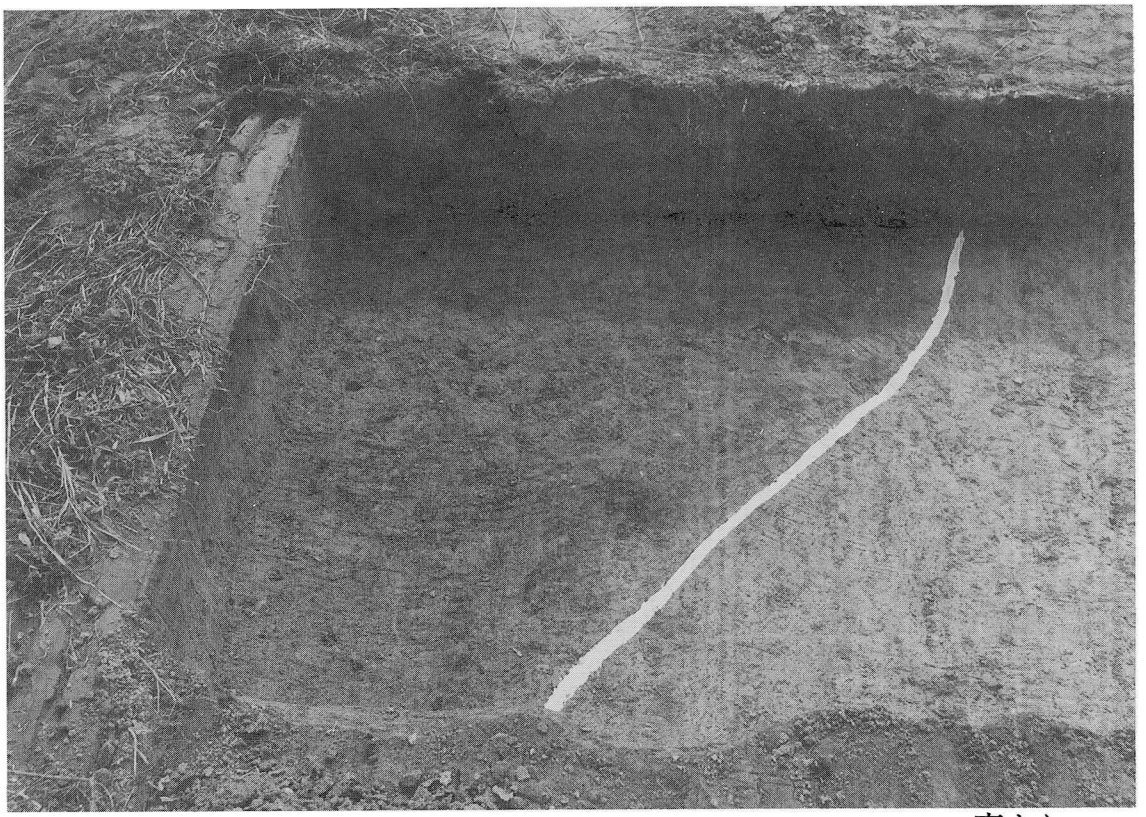
2.　同　上　　西より



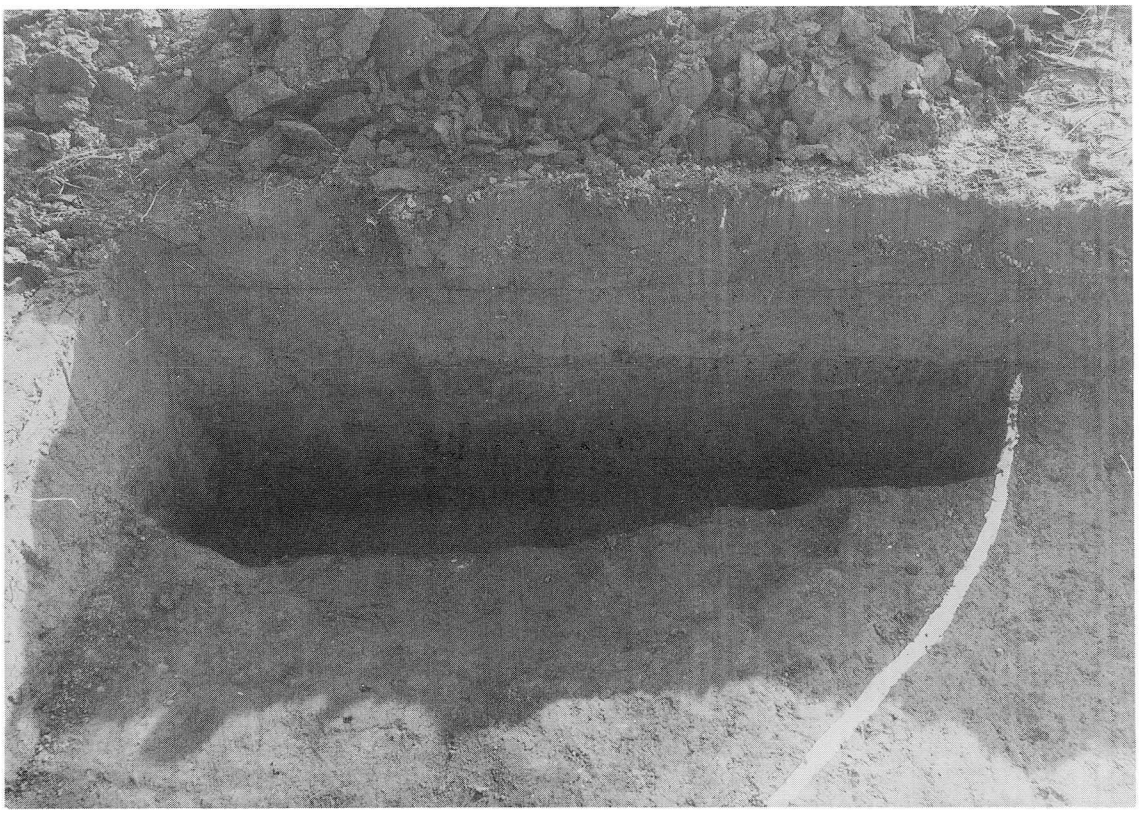
1. ＳＤ－２，Ｐｉｔ－１～３　　東より



2. 同　上　　西より

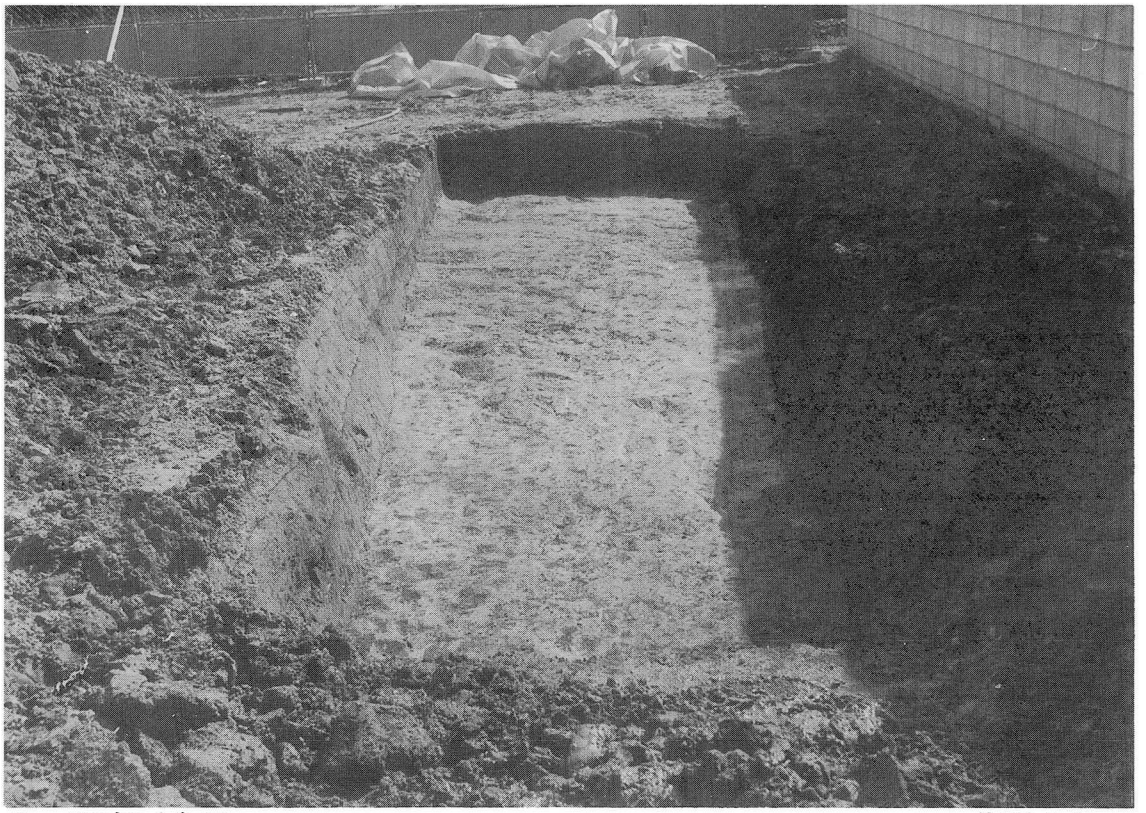


1.　ＳＤ－１　　東より



2.　同　上　　東より

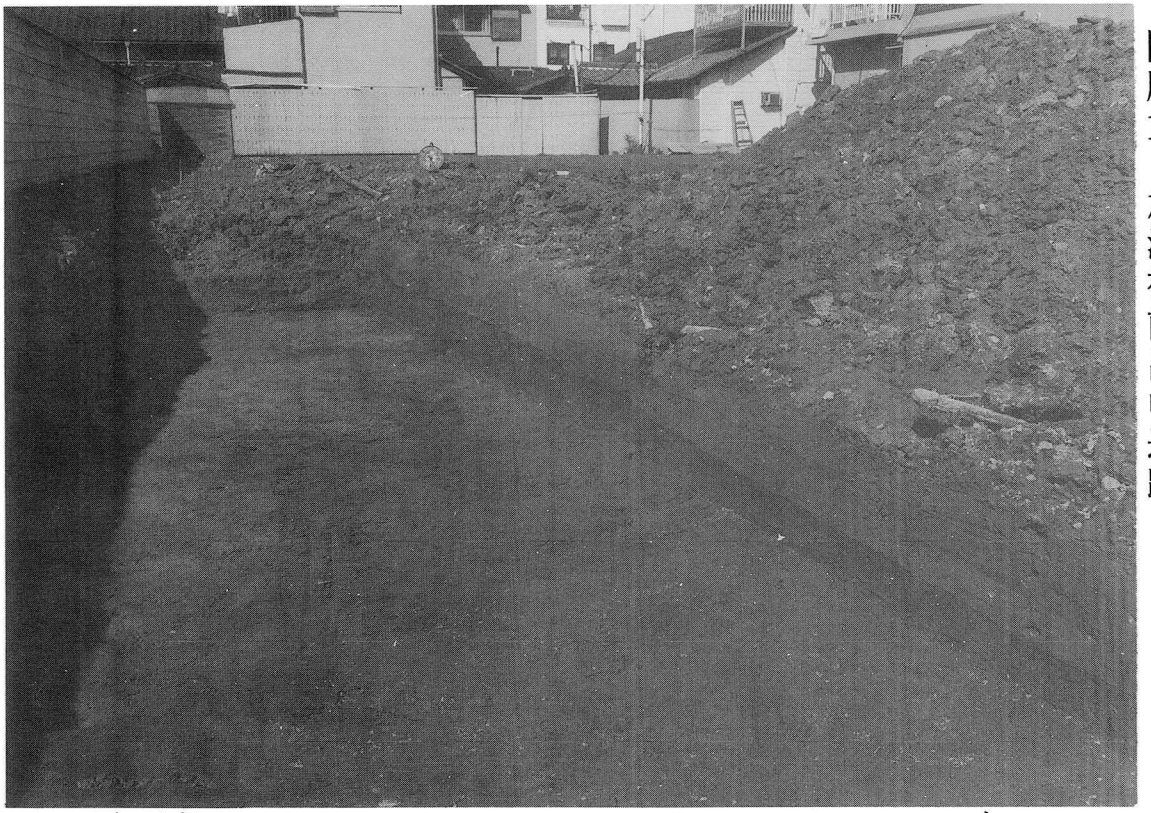
図版9　加治神前畠中遺跡



1.　調査区全景　　北西より

2.　同　上　　南東より

図版10　加治神前畠中遺跡



1.　調査区全景　　南より

2.　同　上　　北西より

貝塚市埋蔵文化財調査報告 第22集

貝塚市遺跡群発掘調査概要XIII

発 行 日　1991年3月30日

編集・発行　貝塚市教育委員会

貝塚市畠中1丁目17番1号

印　　刷　摂河泉文庫（貝塚市北町20－18）